

3 活動計画（全69時間）

過程	時間	学習活動	具体的な支援	高めたい資質や能力	教科との関連
つかむ	2	<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートによる実態把握</li> <li>くろしおタイムの学習の進め方</li> <li>くろしおタイムを通しての向上目標の設定</li> </ul> <p>4年の時のくろしおタイムの学習はをやったんだっけ。</p> <p>町についていろいろ調べていくんだな。</p> <p>学習の進め方を思い出してきたぞ。</p> <p>学習を通してこんなことができるようになっていきたいな。</p> <p>早くやりたいな。</p>	<p>事前に子どもたちの興味・関心、知識、理解などについての実態をアンケートで把握しておく。</p> <p>4年時のくろしおタイムの時間を想起させ、学習の進め方、ポートフォリオの使い方などについて、改めて説明する。</p> <p>自己の変容を自覚させるために、子どもたちに向上目標を立てさせる。</p>		4年【社会】使う物、捨てる物、大切なことは何

自己の変容を自分自身で感じ、自己有用感を味わうためにも設定したいものです。



教科との関連を具体的に明らかにしておくこと、総合的な学習の時間の体験がより価値あるものになっていきます。言い換えれば、教科で身に付けた力を「問題解決能力」、「適切な自己表現力」、「強固な意志」として使いこなせるようにするために、自分自身の成長につながる課題と出会い、その解決に挑む過程を体験させるということです。

みとおす	1	<p>共通体験</p> <p>にゴミなどが落ちていないか調べてみよう。</p> <p>どうしてこんなにゴミが落ちているのかな。まだ使えそうな物もけっこうあるぞ！</p> <p>けっこう空き缶やゴミが落ちていたのね。</p> <p>人間の出すゴミは、自然にどういった影響があるんだろう？</p> <p>町がきれいになるためには、どうすればいいのだろう？</p> <p>課題設定</p>	<p>町の環境問題を話題にあげ、実際に地区の環境の様子を見て回る。この共通体験の場を通して、子どもたちの興味・関心、問題意識を喚起する。</p> <p>学校周辺に空き缶等のごみが落ちていないか調べてみる</p> <p>問題意識をもてずにいる子どもへは、教師から問い掛けを行い、考えられるように配慮する。</p> <p>ウェビング法を用いる</p>	<p>課題設定力</p> <p>実行力</p> <p>人間関係力</p> <p>自己評価力</p> <p>課題設定力</p>	<p>水道の水はどこからくるの</p> <p>そのごみどうするの</p> <p>5年【総合】浜清掃</p> <p>5年【遠足】ゴミ拾い 岬公園清掃</p>
------	---	---	---	--	---

総合的な学習の時間の目標を踏まえながら、課題を自分のこととしてとらえられるようにすることが大切です。そのことが、自己改善としての自分の課題につながっていきます。

各学年の単元に応じた資料の準備（児童の興味・関心、問題意識を喚起する）をすることも大切です。

なりたい自分に向けて努力する過程を設定して、その学習活動を充実させることが大切です。

高めたい資質や能力を学習過程に明示しておくこと、よりよい生き方を目指す子どもを育成するための目標が、評価との関連で一層明らかになり、具体的な教師の手だても講じやすくなります。

と り く む	15	<p><b>追究活動</b></p> <p>グループごとに計画に沿って追究活動しよう。</p> <p>【予想される追究活動】</p> <p>今日はインターネットで調べる時間だ！</p> <p>の見学に行き行ってインタビューするぞ！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室の本</li> <li>・インターネット</li> <li>・見学（観察）</li> <li>・調べる内容に詳しい人へのインタビュー</li> <li>・関係機関への電話調査</li> </ul> <p>今日は、図書の本を使って調べる時間だわ！</p> <p>電話で聞いて、教えてもらえたよ。</p>	<p>調べる内容や、追究方法などについて各グループの計画を把握し、適切な支援・指導が行えるようにする。</p> <p>グループごとの活動となり、活動場所・内容が異なるので、活動に応じた安全指導を事前に十分に行う。</p> <p>活動が異なる場合等、TTを組み、各グループへの支援が行えるように配慮する。</p> <p>集めた資料や作成した物等は、活動ポートフォリオへ時系列で入れ、ポートフォリオの充実を促す。</p> <p>ポートフォリオ棚を作り、友達のポー</p>	<p>実行力</p> <p>探究力</p> <p>人間関係力</p> <p>自己評価力</p>	<p>5年【国語】一秒が一年をこわす</p> <p>5年【社会】国土の環境を守る</p> <p>森林はなぜ大切な</p> <p>5年【家庭】くふうしよう（リサイクル）</p>
		<p>体験したことを自分とのかかわりで考えられるようにすることで、なりたい自分に気付いたり、なりたい自分を見付けたりするようにします。また、活動する中で自分のよさに気づき、実感できるようにすることも大切です。</p>	<p>追究課題の視点、調べる内容、追究方法は適切か、子どもたちに考えさせることが大切です。時には、追究活動の見直しの時間を設け、自分たちの追究活動の問題点を明確化させることも必要です。</p>		

体験したことを自分とのかかわりで考えられるようにすることで、なりたい自分に気付いたり、なりたい自分を見付けたりするようにします。また、活動する中で自分のよさに気づき、実感できるようにすることも大切です。

追究課題の視点、調べる内容、追究方法は適切か、子どもたちに考えさせることが大切です。時には、追究活動の見直しの時間を設け、自分たちの追究活動の問題点を明確化させることも必要です。

なりたい自分に近づいている様子を実感し、発信する活動を設定していくことが大切です。

なりたい自分の夢を家庭や地域の大人と語れるようにします。すなわち、キャリア教育の視点から見ると、子どもたちの将来について家庭や地域での話題としてのきっかけづくりにもなります。

ま と め る	1	<p><b>発表</b></p> <p>調べたことを発表しよう。</p> <p>よく調べているね。意見を言うようきちんとメモしよう。</p> <p>相手に分かりやすいように発表を工夫したよ。</p>	<p>作成物、実物などを効果的に使いながら発表できるように助言する。</p> <p>時間や場所、招待者など、発表の場と学びの場の適切な設定を行う。</p> <p>意見を言う視点等を明確にし、活発な意見交換のための適切な支援を行う。</p>	<p>実行力</p> <p>探究力</p> <p>表現力</p> <p>自己決定力</p> <p>人間関係力</p> <p>自己評価力</p>	
		<p>なりたい自分に近づいている様子を実感し、発信する活動を設定していくことが大切です。</p>			

一年間のまとめと反省

1 年間の反省をしよう。

私には、どんな力がついたらんだろう？

学んだことを、これから生かしていこう！

ポートフォリオ等を活用させ、単元全体を振り返らせ、自分の成長について自覚させる。

自己評価力

向上目標カードや評価カード、活動の写真なども活用して反省させる。

自分を振り返る活動を設定することが大切です。

活動を振り返ることで、自分自身の成長を実感させることが重要です。

活動を振り返らせる場合は、ポートフォリオ等を活用すると、今までの自分の活動の歩みが視覚的・具体的な形としてとらえられます。

## イ 中学校の例

1 単位時間の授業を行うときにも、身に付けさせたい資質や能力から目標を明確に示すことが大切です。それにより、なぜこのような学習を行うのが教師自身の意識付けになり、講ずべき手だても明らかになってきます。

インタビューの活動は、欲しい情報を得るためだけでなく、その先にはコミュニケーション能力を養うという目標があるということを生徒自身に意識させることが大切です。そうすることが、どのようにインタビューをすべきかを生徒に考えさせることになります。

3-2 事前指導の例

(1) 主題 「インタビューをしよう」

(2) 対象学年 第3学年

(3) 本時 (4 / 事前指導 29)

(4) 目標 自己の目的に応じて情報の収集・探索をすることができる。(情報活用能力)  
他者に配慮しながら積極的に人間関係を築こうとすることができる。(コミュニケーション能力)

(5) 実際(ワークシートは巻末参考)

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働き掛け
導入	1 前時の「ビジネスマナーを学ぼう」の復習と「インタビューをしよう」の確認を行う。	15分	1 前時のビジネスマナーについてのワークシートを振り返り、本時の「インタビュー」活動についての指示を行う。
	2 個人でまとめてきたインタビューの質問項目を、各班に分かれてワークシートにまとめる。		2 学級を六つの班(5~6人)に分け、班(生活班)ごとに、テーマに沿っているか確認を相互に行う。
	3 各班内で、役割を決定する。(質問係、メモ係など)		3 班員全員が目的をもって、インタビューに参加できるように、各役割の確認を行う。
展開	4 インタビュー活動を行う。各班に分かれて、教頭室に行きインタビューを行う。	30分	4 インタビューを受ける先生は、質問を行う姿勢、質問内容、声などについて質問終了時に、アドバイスを行う。教室で待機している間は、班相互でシミュレーションを行う。
	5 インタビュー後に活動を振り返る。インタビューを振り返って反省の記入を行う。		5 質問の返答のまとめと受けたアドバイスについてまとめ、改善点の反省を行う。
終末	6 次時の予告を行う。 次時の学習につながるまとめを行うことが大切です。	5分	6 次の時間は、事業所の決定を行うことを生徒に連絡し、自分の就きたい職業について、その理由を考えてくるように伝える。

話し合いを行う場合何を話し合ったらよいか生徒自身が理解していないとうまくいきません。その点で、話し合いを行う視点を示すことも大切になってきます。

グループ別にインタビューを行う場合全員が目的をもって臨めるよう、実際のインタビューを想定して、役割を明確にしておくことが大切です。

インタビューの練習を行う場合、生徒同士で行う以外に、大人と行う場を設定することも効果的です。しかも、あまり面識のない人の方が生徒の緊張感が増し実際のインタビューに近い形で行えると考えられます。

総合的な学習の時間の中で、一つのアプローチとして職場体験学習を中心としたカリキュラムを編成します。その際、職場体験学習を行う事前と事後の在り方が重要となってきます。言い換えれば、職場体験学習のみを独立した形で行うのではなく、意図的、計画的に全体を計画するということです。

本校の総合的な学習の時間のオリエンテーションを行うことが大切です。特に、複数の小学校から生徒が入学してくる中学校の1年次は、小学校での総合的な学習の時間の内容を把握しておくことが必要です。更に言えば、小・中学校間で連携をして総合的な学習の時間の計画を作成することが大切です。

【総合的な学習の時間におけるキャリア教育に関する計画】

月	日	時数		活動テーマ	活動内容
4	12	1	1	オリエンテーション	職場体験学習の活動内容・意義・日程の説明を理解する。
	25	2	1	働く目的について考えよう。	どんな職種に就きたいか、自分のどこを生かしたいかを考える。
		3	1	自分の適性を考えよう。	適性検査を行う。
		4	1	ビジネスマナーを学習しよう。	依頼の方法について学習する。
	27	5	1	インタビューをしよう。	ロールプレイを行ってインタビューの方法を学習する。
5	7 - 8	2	1	職場体験をする事業所を決めよう。	職種・事業所を決定する。
			2	職場体験をする事業所を決めよう。	職種・事業所を決定する。
	16 - 17	1	事業所に履歴書を出そう。	自己PRをすることで自己理解を深める。	
6	7	23 - 24	2	親の体験に学ぼう。	保護者インタビューの集約を行う。
	13	25 - 26	2	職業講話を聴こう。	高校就職担当者の企業の話を聴く。
	28	27 - 28	2	職場体験学習の計画を立てよう。	当日の日程・質問項目の計画を作る。
7	10	29	2	職場体験学習の準備(事前指導)	事業所でのマナー・緊急時の連絡先などの確認をする。
	11	30 - 35	6	職場体験学習	事業所内の注意事項の確認をする。
	12	36 - 41	6	職場体験学習	仕事内容・心構え等のインタビューを行う。
	13	42 - 47	6	職場体験学習	体験活動を行う。
	14	48 - 53	6	職場体験学習	お礼状の書き方を学習する。
	18	54	1	職場体験学習の感想・事業所へのお礼の手紙を書こう。	体験活動の振り返りを行う。
9	6	58 - 59	2	職場体験で学んだことをまとめよう。	メモしてきたことをまとめる。
			2	職場体験学習の感想文集を作ろう。	同じ職種で体験をまとめる。
	27	60 - 61	2	職場体験学習の発表会の準備をしよう。	体験の内容・感想をまとめ、文集にする。
10	4	62 - 63	2	発表会の事業所別まとめをしよう。	個人のお礼を基に、事業所で学んだことをまとめる。
	10	64 - 65	2	職場体験学習の発表会をしよう。(各職種ごと)	事業所別にまとめた内容を発表できるようにする。
			2	職場体験学習の発表会をしよう。(全体)	コースごとに発表会をし、コース代表を決める。
	25	76 - 77	4	学習発表会リハーサル	コース代表ごとに発表会をする。
26	78 - 79	4	学習発表会	各コースの発表を聴くことによって、追体験をする。	
27	80 - 83	4	学習発表会	学年代表を決める。効果的なプレゼンテーションができるようにする。学年代表が発表する。	

詳細は、前ページで説明。

総合的な学習の時間に限らず、計画を立てる場合、その目標や学習内容などの内容条件の部分と、それを支える物や設備、人などの物的条件の両面で計画を立てることが大切です。

職場体験学習は1日のみ実施するのではなく、できるだけ複数日実施することが望ましいと考えます。それは、1日だけの実施では子どもたちの実践が評価、改善、新たな実践というサイクルで行うことができなくなるからです。

学んだことを他者に発表する場を設定することが大切です。できれば中間発表や全体発表など複数回行うことが望ましいです。それは、発表を行うたびに自己評価能力が高まり、よりよい自分へ成長する過程を経験することにつながるからです。

職場体験については、文部科学省が中学校職場体験学習ガイドを作成しているので、参考にしたい。(文部科学省のWebページに掲載。URLは以下参照)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/05010502/026.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026.htm)

ウ 高等学校の例

- インターンシップを通して育てたい生徒像
- 【人間関係形成能力の育成】
    - ・ 自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。
    - ・ 異年齢の人や異性など、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。
  - 【情報活用能力の育成】
    - ・ 社会規範やマナーなどの必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。
    - ・ 多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
  - 【将来設計能力の育成】
    - ・ 社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。
    - ・ 将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。
    - ・ 生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。
    - ・ 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて自分の将来について真剣に考える。
  - 【意思決定能力の育成】
    - ・ 進路選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観をもつ。
    - ・ 自分を生かし、役割を果たしていく上での様々な課題とその解決に取り組む。

高等学校でも、小・中学校と同様に学校教育目標やキャリア教育の視点から、育てたい生徒像を設定する必要があります。その際、国立教育政策研究所の「職業観・勤労観を育むプログラムの枠組み(例)」を参考に設定することも考えられます。

1 テーマ 高等学校におけるキャリア教育の取組  
 ~ キャリア教育の視点を取り入れた2年次の総合的な学習の時間の実践から ~

2 全体計画

月	行事 (進路関係)	進路指導計画 (LHRの取組)	総合的な学習(時間数)
4	進路希望調査	進路適性の理解	
5	教育相談	学部学科についての研究(進学) 個性について考える(就職)	オリエンテーション(2) 第1回希望調査(1)
6	進路講演会 進路ガイダンス	一般職業適性検査 私の適性と職業	
7	大学出前授業 3年進路別説明会		第2回希望調査(1)
8	職員研修会		教師による振り分け作業(4)
9	進路希望調査	進路を考える	訪問先企業の研究(3) 職種などについて調べる
10	教育相談	学部学科についての研究(進学) 職業と適性について(就職)	就業体験先発表と心構えの指導(1) 外部講師によるマナー講習会(1)
11		文理選択について(進学)	直前指導(1) 職場体験学習(21) お礼状、感想文記入(1)
12		私の適性と職業について(就職)	発表会準備(1)
1	進路希望調査 教育相談	入試制度を理解する(進学) 求人状況について(就職)	発表会準備・製本(1) 体験発表会(1)
2	進路体験発表	進路別合同LHR(進学・就職)	
3	社会人講話	先輩の進路先	
	目標	自分の将来を展望して適切な進路設計ができるようにする。 ア 適性検査や模擬試験・インターンシップ等で得た客観的なデータを進路実現に活用する。 イ 進路目標の設定を早くさせ、学習意欲を喚起する。 ウ 社会への認識や職業に対する興味・関心を深め、適性・能力や家庭状況などを勘案して自己の進路を決定させる。 エ 人権同和教育の視点に立ち、進路指導の推進に努める。	ア 望ましい職業観や勤労観を養い、創造性や問題解決能力の育成を図る。 イ これらの課題と自己の課題とのかわりを考え、自己の在り方や生き方を考える生徒の育成を図る  キャリア教育の視点で教育活動を改善していくとき、例えば、インターンシップを中心に据え、その事前、事後をどのように構築していくか考える方法もあります。いずれにしても、高等学校3年間を見通して計画することが大切です。

高等学校の場合は、生徒が多数の中学校から入学してくることが一般的であり、特定の中学校と連携して計画を作成することは難しい面があります。しかし、可能な限り中学校の現状を把握した上で作成することが大切です。また、普通科のみの学校とそうでない学校では実態が違うことを踏まえ、自校の実態に合った計画を作成することが大切です。いずれにしても、生徒が自分の将来を見通すことができた、自分の将来の参考になった、自分の将来の夢に確信がもてた、社会に出たときに今の学習が必要だということが分かったなどの気持ちをもてるようにすることが重要です。

小・中学校と違い、高等学校では、卒業後の進路を考えると、社会生活を強く意識しなければならないという現状があります。したがって、自分の夢と自分の適性や実態をよく考える場を設定することが大切です。また、生徒だけでなく、保護者を含めた取組をすることも重要です。

## 工 養護学校の例

本事例は、障害のある生徒が主体的に社会参加し、質の高い生活を送るために、必要な支援や介助を受けながらも本人が生活の主体者としての意識をもち、自らの生き方、在り方を「自己決定」することを指導計画に組み込んだものです。

- 1 単元名 I市ってどんな町
- 2 学習集団 中学部3年 2人
- 3 目標 I市についての調べ学習や体験学習を通して、I市のよさや特色を知り、自分の住む町や地域への愛着や興味・関心を高めることができるようにする。  
追究目標や課題解決の手段、また、学習のまとめ方や発表の仕方などを自己決定し、主体的に活動に取り組むことができる。
- 4 進め方 本単元は、A児とB児が在住するI市について調べ、まとめ、発表する一連の学習活動を通して、I市のよさや特色に気付くようにする。追究目標や追究計画、学習のまとめ方や発表の仕方などは生徒自身が決定し、生徒の活動がうまく進むように、教師は学習の調整役としての支援を心掛ける。本単元を通して、地域資源を発掘し有効に活用する力を身に付けることは、将来の生活を便利で豊かなものにし、質の高い生活の実現につながるものと考えられる。
- 5 指導計画

回	主な学習活動・内容		時間	
1	課題設定	1 地域におけるこれまでの生活や将来の生活について考える。	1	
		2 I市について知る。		
		3 調べ学習への課題意識を高める。 課題設定後、今後の学習計画について調べる。		
	追究目標設定	4 追究目標を設定する。		2
	課題追究計画作成	5 追究計画(課題解決の手段、調べ学習の計画)を立てる。		2
2	課題追究学習	6-1 調べ学習をする。 パソコン、雑誌、地図、VTRなどを使って	5	
		6-2 調べ学習をする。 パソコン、雑誌、地図、VTRなどを使って	3	
3	課題追究学習	7 校外学習の計画を立てる。	2	
		8 校外学習による調べ学習を行う。	5	
4	課題追究学習	9 学習の成果をまとめる。	2	
		10 発表の仕方を考える。	1	
5	学習成果のまとめ	11 発表の練習をする。 お互いの発表を評価し合い、発表の仕方を再度工夫する。	2	
		12 学習のまとめを発表する。 中学部全体	2	

### 6 本時の実際

過程	主な学習活動	教師の働き掛け/指導上の留意点	教材・教具等	
導入	1 始めのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードを使い前時の学習を振り返り、学習のつながりを意識できるようにする。また、本時の活動をより明確に見通すことができるように、前時にA児が作成した校外学習計画表で日程の確認を行うようにする(機)。</li> <li>自己目標を立てる場面では、フォトシールや本時の学習のキーワードを使ってA児が一人で自己目標を立てられるように見守り、励ますようにする(機)(有)。</li> <li>自己目標を立てられたことを称賛し、自己目標を意識し学習活動に取り組めるようにする(有)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目当てカード(機)</li> <li>発表用暗幕(機)(有)</li> <li>校外学習計画表</li> <li>デジタルカメラ</li> </ul>	
	2 前時の学習を振り返る。			前時の振り返り
	3 本時の学習について知る。			学習内容の確認
	4 自己目標を立てる。			自己目標設定
展開	5 校外学習に行く。 ・H神社 ・I駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>終日、校外学習計画に沿って自分で考え、行動することを伝える。</li> <li>支援の基本として、危険な場面以外は、A児の判断に任せ、活動がうまく進んでいない場面では、そのことに気付くように言葉を掛け、A児自身で活動の確認と調整ができるようにする(機)。</li> <li>宮司や駅員など、初対面の人に質問する場面では、緊張することが予想されるため、リラックスできるよう言葉掛けを行い、励ますようにする(有)。</li> <li>A児の自己決定そのものを承認し、十分に称賛することで、自己決定したことを実感できるようにする(有)。</li> <li>終日、自転車での移動となるので、安全面には十分に留意する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車</li> <li>校外学習調べ用紙(機)</li> <li>校外学習マップ(機)(有)</li> <li>スケジュールディスク(機)(有)</li> <li>筆記用具</li> <li>財布</li> </ul>	
	6 校外学習のまとめをする。			自己目標設定 モニタリング 本時の振り返り
終末	7 本時の学習を振り返る。 8 次時の学習について知る。 9 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表前に校外学習の様子を写真で確認し、より明確な振り返りができるようにする(機)。</li> <li>発表後は、A児の発表そのものに加え、本時の活動で教師が気付いたA児のよい点やできた活動を称賛することで、自己有用感を得られるようにする(有)。</li> </ul>	発表会場写真	

(機)・・・機能的な側面を補う教師の働き掛け (有)・・・自己有用感を高める教師の働き掛け

自己評価のプロセスを、前時の振り返り 学習内容の確認 自己目標設定 モニタリング 本時の振り返りという形で実践を行っています。

自己有用感を高めるために、自己目標を明確にし、目標の意識化を図りながら、その目標を達成させることが大切です。

「自己決定」が成立する土台には、決定を下す対象に決定者のニーズや興味・関心が備わっていること、自己決定するための情報が必要であること、自己決定したことを表現し、周囲に伝える必要があることを踏まえ、決定者のニーズ 情報収集 段階 思考段階 伝達段階 周知段階の指導計画を作成しています。

自己評価を学習活動に位置付けることで、自己決定したことを実感できるようにすることが大切です。

自己決定をする力を引き出すには、児童生徒の認知特性に応じて、自己決定するための手掛かりとなる情報を分かりやすく整理し、正確に伝えることが大切です。また、教材・教具を工夫・活用して、物事を分かりやすく、より具体的にとらえられるようにすることも大切です。